様式1（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価　中間評価

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立塩田小学校
1　前年度 評価結果の概要	○学力向上については、学力向上対策シートに示したマイプランを指導したと回答した職員が90%であった。GIGAスクール(タブレット端末の活用）についても職員の意識は高まっている。学力につながる活用の仕方や授業づくりについて探ったり、保護者へ活用状況を理解してもらうための場や機会を設定したりする必要がある。 ○コロナ禍の中であっても学びを止めず対話的で深い学びを実現するためには、職員全体で共通の認識をもち、地域や外部と積極的に連携をとりながら体験活動や学習活動について方法を模索していく必要がある。 ○業務改善・働き方改革については、働き方改革への意識をもち進めることができてきた。今後も時間を意識しながら、職員全体で業務内容を見直し具体的に工夫を進めていく必要がある。
2　学校教育目標	元気に　がんばる　塩田っ子の育成
3　本年度の重点目標	○地域・家庭との教育力の連携（コミュニティとの活動及び家庭学習・家読の奨励） ○タブレットを活用した学習方法の研究

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

評価項目（重点取組）	取組内容（重点取組）	成果指標（数値目標）（重点取組）	具体的取組	進捗度（評価）（中間評価）	進捗状況と見通し（中間評価）	達成度（評価）（最終評価）	実施結果（最終評価）	評価（学校関係者評価）	意見や提言（学校関係者評価）	主な担当者
●学力の向上	○児童が分かる、できると思う授業の充実及び家庭学習の推進	○「家庭学習強化週間では家庭学習時間ができた」「タブレット端末を活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が85%以上を目指す。	・毎月のノーデジタルデーの際に家読を推奨する。 ・家庭学習強化週間を設定する。（年2回） ・タブレット端末の研修会を年2回以上取り組む ・学年に応じた内容でタブレット端末を活用した授業（授業参観も含む）を年間5回以上実践する。	B	・家読は推奨しているが、関心が低く取り組み率が伸び悩んでいるので、今後も推奨していく。 ・家庭学習強化週間では、目標の家庭学習時間達成率が1回目は85%だった。2回目は、90%を目指す。 ・タブレット端末の研修は、夏休み中に1回行い、職員の意欲が高まった。 ・タブレット端末を活用した授業は、日々どの学級も取り組んでいる。授業参観でもタブレッ		・		・	かしこくプロジェクト 富永 古賀 光岡
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が95%以上をめざす。	・全校でのふれあい道徳の実践 ・道徳の授業について学校や学級のお便り等で年2回は知らせる。	B	・ふれあい道徳の計画について、保護者に配布した。9/24に実施し、その後、お便りを配布予定。		・		・	やさしくプロジェクト 有森
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等（いじめの認知・防止のための取組・事案対処等）について組織的に対応ができていると回答した職員が90%以上にする。	・教育相談週間を、年1回以上実施する。 ・毎月心のアンケートを実施し、気になる点の聞き取りや共通理解の場で確認する。 ・SCによる心の授業を各学年1回ずつ行う。 ・スズキ校務の児童の様子の欄に良いことや気になることを書き込む。	A	・子ども同士のトラブルに早期に対応し、大きな案件につながることはない。		・		・	やさしくプロジェクト 川原
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・体験活動において児童に活動の見通し、及び学習の振り返りを行う。 ・キャリアパスポートを活用し、学年や学期の目標及び振り返りを行う。（年2回）	B	・行事ごとにめあてをもたせて振り返りを行っている。 ・学期末にキャリアパスポート記入週間を設定している。		・		・	やさしくプロジェクト 山崎
	○あいさつ・返事の励行	○アンケートで「地域の方にもあいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85%以上になることをめざす。	・あいさつや返事の仕方を具体的に指導するとともに、あいさつの意味について児童に理解させる。 ・児童会活動や委員会などによる挨拶の取組を実践する。 ・保護者に対し、PTA総会や学級懇談会、学級通信、まちCOMIメール等を通してあいさつ指導を行うような働きかけをする。 ・登校班チェックの項目に「地域の方への挨拶」についての項目を入れ振り返させる。	B	・委員会によるあいさつの取り組みを毎月、1週間行っている。 ・気持ちのよい返事ができるように、全職員で指導を徹底する。 ・長期休業前の地区児童会で、地域や見守り隊の方への挨拶ができたか、振り返らせた。		・		・	やさしくプロジェクト 釘町
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」が実践できていると答える児童・保護者をともに85%以上にする。	・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を講演会や学級指導などで継続して行う。 ・「早寝・早起き・朝ごはん（生活習慣）」に関する授業を年1回実践する（担任及び栄養教諭とのTT）。	B	・生活がんばりカードは、夏休み明けに1週間実施した。 ・4月のSNSについて全学年の児童が、講話を聞いた。また、9月の日曜参観の教育講演会では、スマホやゲームについて5，6年児童が参加する予定。 ・食育の授業を下学年で行った。上学年については今後行う予定。		・		・	たくましくプロジェクト 安田 安冨
	◎志を高める体験活動の充実	○アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童及び、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者を共に85%以上にする。	・各学年で、外部（地域の老人会等）や地域ボランティアと連携した学習活動を2回以上行う。 ・事前の打合せや事後のやり取り（発表会、感想などの手紙での交流）まで意識して活動を行う。	B	・1，2年生は芋さし、2，3年生は玉ねぎ引き、3年生は老人会訪問、4年生は稚魚放流・塩田川講話、5年生はもち米作り、6年生はミシンサポーター、そば作りに来てもらっている。 ・お礼の手紙は学習活動後に書いて渡すことができている。		・		・	たくましくプロジェクト 馬場 藤瀬
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（月当たり45時間以内）を遵守する職員を80%以上にする。	・定時退勤推進日（毎週金・第3水）の完全実施（毎回掲示物の提示）。 ・反省をもとに分掌事務等の分担の見直し（年2回）。	B	・時間外勤務（4月～5月）は令和4年度43:23時間に対して令和5年度は43:46時間と増えている。 ・反省等をもとに業務内容の見直しの提案や服務研修においてワークライフバランスを取り扱い職員の意識づけを行っているが、今後も継続していく必要がある。		・		・	校長 教頭
	○放課後の事務時間の確保	○年間授業時数や余剰時数から、校時を見直し事務作業期間を年2回設定する。	・放課後の事務時間確保のために5時間授業日を設定し、10時間確保する。 ・成績処理及び学期末事務のために下校時刻14：50の週間の設定（年2回）。	A	・1学期後半開始3日間及び9月末の成績処理週間で4日間の5時間週間を設定することで、上学年担任は、9時間の事務時間を確保できた。 ・今後、毎週火曜日に行っていた職員連絡会の回数を減らすことで、作業時間の確保に努める。		・		・	校長 教頭 教務

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目（重点取組）	重点取組内容（重点取組）	成果指標（数値目標）（重点取組）	具体的取組	進捗度（評価）（中間評価）	進捗状況と見通し（中間評価）	達成度（評価）（最終評価）	実施結果（最終評価）	評価（学校関係者評価）	意見や提言（学校関係者評価）	主な担当者
○特別支援教育の支援体制の充実	○特別な支援を要する児童や配慮を要する児童の理解や対応について、職員間でずれがないように共通理解を行う。	○アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を組織的に行うことができている」と答える職員が90%以上になることをめざす。	・支援を要する児童の情報交換を、月1回行い、記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く ・保護者に対して啓発活動を年1回行う。 ・特別支援についての啓発活動を各学年1回以上行う。	B	・具体的取組の中で、校内研修の実施、保護者への啓発、児童各学年への啓発等を行ってきた。今後も啓発活動を継続していく。 ・困り感のある児童の共通理解の時間を確保して、全職員が、児童の困り感を理解して、個に応じた支援の在り方を探求できるようにする。		・		・	川原

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・